

教科「国語」シラバス

I. 学習の到達目標と評価の観点

(教科名) 国語	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
	2 単位	高校 第 1 学年	『精選 現代の国語』(第一学習社) 『入試頻出漢字+現代文重要語彙TOP2500』(いろいろな書店) 『現代文解答力の開発講座』(駿台文庫) 『現代文のキーワード読解』(Z-KAI)
学習の到達目標	①社会生活において必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする(知識の習得)。②他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす(表現力と共感力)。③言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う(探究力と想像力)。		
評価の観点	基本的な漢字・語彙や、評論文が扱う概念・思想などの知識を習得し、それらを文脈の中で活用する力を身につけている。《知識・技能》		
	叙述をもとに内容・構成・論理の展開などを的確に捉え、目的や意図に応じた根拠の示し方や説明の仕方により、読み手の理解を得られる表現ができています。《思考力・判断力・表現力》		
	自らの力で主体的に本文を読み解き、内容や構成を正確に把握する力や、他者との対話や議論を通して、他者の考えに共感する力を身につけている。《主体性・多様性・協働性》		

【定期考査における観点別評価について】

年間5回の定期考査において、各回とも問題ごとに《知識・技能》《思考力・判断力・表現力》《主体性・多様性・協働性》の3観点における評価を行い、点数化し、評定算出の基本資料とする。

【点数化が難しい科目や課題について】

- A: 「十分満足できる」状況と判断されるもの……………100%
- B: 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの………… 80%
- C: 「努力を要する」状況と判断されるもの…………… 60%
- D: 未提出、未実施…………… 0%

2. 学習計画及び評価方法等

※教育的効果を考え、事前に生徒に説明した上、扱う教材・内容を変更することもある。

	単元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
I 学期 中間 考査 まで	①「生きもの」として生きる（中村桂子） ②「本当の自分」幻想（平野啓一郎）	①筆者の提案する人間の生き方について、文章構成をもとに把握し、自分に照らして考えを深める。 ②主題に至る論の構造を把握し、主張に説得力を持たせるための論の展開について考える。	比較的平易かつ分量の少ない評論を読むことを通して、文章の論理的な展開を理解し、論理的な思考力を養う。 使用教材：『精選 現代の国語』プリント
I 学期 期 末 考査 まで	①水の東西（山崎正和） ②ものごとば（鈴木孝夫） ③【対比】「間」の感覚（高階秀爾） ④【具体と抽象】「日本語は世界をこのように捉える」（小浜逸郎）	①東西の対比関係を用いながら、日本の水文化に見られる特徴について論じる叙述の方法を把握する。 ②具体(例示)と抽象(意見)の関係を整理して論理構成を把握し、筆者が主張する限後の性質を理解する。 ③④「論理の型」(対比)(具体と抽象)を学ぶ。	評論文の基本的な叙法である二項対立について学ぶ。書かれている内容を理解するだけでなく、全体を俯瞰して文章構成を理解する能力をつける。 使用教材：『精選 現代の国語』
2 学期 中間 考査 まで	①羅生門（芥川龍之介） ②スピーチで自分を伝える	①下人の行動や心理をもとに場面の展開を捉え、老婆の語る論理が下人の決断に与えた影響を読み取る。 ②自分の意見を大勢の聞き手にわかりやすく伝えるスピーチの方法を理解し、実践する。 ③他の人のスピーチを聞き取り、評価する方法を学ぶ。	ひとつの出来事も、誰が誰の立場から語るかによって異なる意味を意味を持つことに気づく。 使用教材：『精選 現代の国語』、プリント
2 学期 期 末 考査 まで	①生と死が創るもの（柳澤桂子） ②不均等な時間（内山節）	①三つのまとまりの関係性を捉えて内容を把握し、生命科学の観点から提示される「死」について考えを深める。 ②具体的事例から一般論への展開と、対比の構造とを手がかりとして、近代化と時間の合理性との関係を理解する。	科学があげてきた「大きな成果」を整理し、いのちに関わるところにどれだけ深く科学が関わっているかについて押さえる。 使用教材：『精選 現代の国語』、プリント

3 学 期 期 末 考 査 ま で	①グローバリズムの[遠近感] (上田紀行) ②ロビンソンの人間と自然(村岡晋一)	●「遠近感」の二重の意味を文脈から把握し、グローバル社会における問題を多様な視点から考える。 ●「ロビンソン・クルーソー」を例として取り上げた筆者の意図を理解したうえで、主張を把握する。 ●情報を適切に整理し、論理の展開に沿って読むことで、未知の概念にも一定の理解ができるようにする。また、推論の仕方を理解し、自分でも使いこなせるようにする。	記号化について理解し、言語の価値を再確認する。 使用教材：『精選 現代の国語』、プリント
---	---	---	---

【成績評価の概要について】
(1) 学期における評価の対象 ①中間考査：100点（知識・技能や、思考力・表現力の評価） ②期末考査：100点（知識・技能や、思考力・表現力の評価） ③漢字テスト・語彙テスト・授業内課題の提出・課題問題集の提出・授業中の態度：50点（関心・意欲・態度などの評価） (2) 学期評定の算出方法 定期考査の素点合計200点に対し、平常点合計は50点とし(素点：平常点＝8：2)、多面的評価を行う。 (3) 年度末評定の算出方法 定期考査の素点合計500点に対し、平常点合計は125点とし(素点：平常点＝8：2)、多面的評価を行う。